

製品名: AURKB マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80575**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間、ネズミ、マウス、サル、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	AURKB
別名	AURKB
遺伝子 ID	9212.0
SwissProt ID	Q96GD4
免疫原	大腸菌で発現した AURKB の精製された組み換え断片。

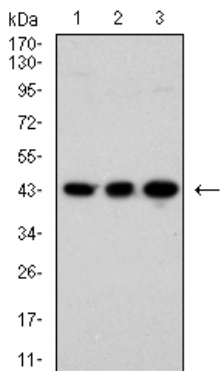
背景

AURKB（オーロラキナーゼ B、AIK2、またはオーロラ B）は、344 アミノ酸（約 39kDa）のタンパク質で、動原体付近の微小管、特に K ファイバーと呼ばれる特殊な微小管に局在します。AURKB は有糸分裂タンパク質キナーゼであり、ヒストン H3 をリン酸化し

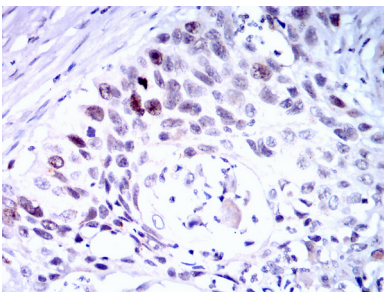
て、有糸分裂および減数分裂中の染色体分離を制御します。また、中心体分離、染色体分離、細胞質分裂など、有糸分裂のいくつかの段階を制御している可能性があります。染色体パッセンジャー複合体（CPC）の構成要素であり、CPC複合体は有糸分裂の重要な調節因子として機能します。CPC複合体は、セントロメアにおいて染色体の正しい配列と分離を確保するために重要な機能を持ち、クロマチン誘導性の微小管安定化と紡錘体の組み立てに必要です。ARK-2転写産物はヒト胸腺および胎児肝臓に高レベルで存在し、ARK-2タンパク質レベルはS期およびG2/M期の両方で最大となる。

研究分野

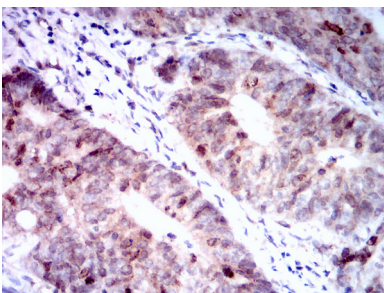
画像データ



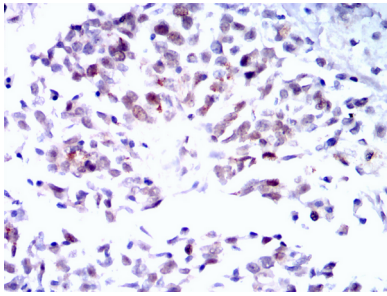
F9 (1)、COS7 (2)、およびC2C12 (3)細胞溶解物に対するAURKBマウスmAbを使用したウエスタンブロット分析。



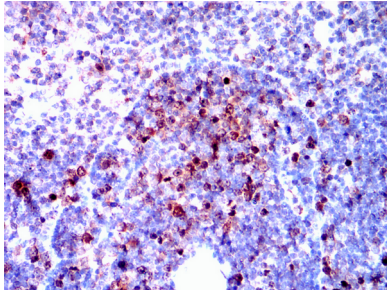
AURKBマウスmAbとDAB染色を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学分析。



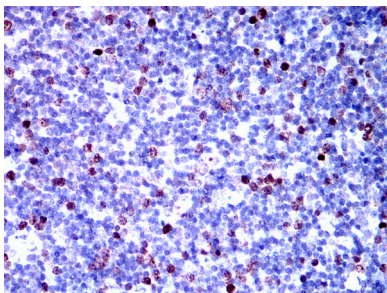
AURKBマウスmAbとDAB染色を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析。



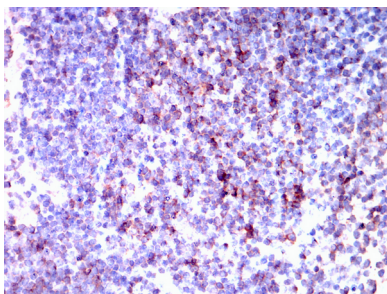
AURKB マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト乳がん組織の免疫組織化学分析。



AURKB マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ラット胸腺組織の免疫組織化学分析。



AURKB マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ウサギ胸腺組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色による AURKB マウス mAb を使用した、パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学分析。